

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 悪霊ミカ祓いの祈禱書 Mi kha' i bzlog' gyur 校注

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2014-04-11 キーワード (Ja): キーワード (En): mikha   exorcism   folk religion   Tibet   magic   evil spirit   gossip 作成者: 村上, 大輔 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15021/00003838">https://doi.org/10.15021/00003838</a>

資料

悪霊ミカ祓いの祈禱書 *Mi kha'i bzlog 'gyur* 校注

村上大輔

The Tibetan Exorcist Prayer *Mi kha'i bzlog 'gyur*  
—text, translation and notes—

Daisuke Murakami

1 はじめに	4 テキスト
2 ミカの呪詛返しについて	5 和訳
3 むすび	

## 1 はじめに

小稿は、チベットの悪霊ミカ (*mi kha*) を祓うための祈禱書 *Slob dpon pad+mas mdzad pa'i mi kha'i bzlog 'gyur bzhugs so* (『阿闍梨パドマサンバヴァの行じられたミカ祓い』11 フォリオ) のテキストと訳注である。ミカとは「人の口」の意味であるが、嫉妬や妬みから生まれる風評の怨霊のようなもので、チベット文化圏で最も広範かつ身近に存在する悪霊の一種である。このミカ祓いの儀軌は、歴史的には、仏教がチベットに導入される以前の民間信仰、もしくは、悪霊祓いをその活動のひとつの柱としていた古代ボン教——ドゥルボン (*brdol bon*) やキャルボン (*'khyar bon*)<sup>1)</sup> ——の流

\*日本チベット学会会員

**Key Words** : mikha, exorcism, folk religion, Tibet, magic, evil spirit, gossip  
**キーワード** : ミカ, 悪霊祓い, 民間信仰, チベット, 呪術, 悪霊, 噂

れを汲むものと考えられる。小稿は、今現在（2012年）でもチベット自治区ラサで観察されるこのミカの呪詛祓いの儀軌を紹介し、その基本的な祈祷書のひとつの邦訳と文献的注釈を試みる。

もとより、チベットにはあまたの「霊」や「神」が存在し、人々の廻りに「生きている」。善い神霊もあれば、悪い神霊もある。また、単なる習俗にとどまるものもあれば、儀軌の体系を持つものもあるし、さらにボン教や仏教に組み込まれたものもある。これら「民間信仰」と呼び得るカテゴリーに属する神霊およびその宗教観念に関しては、これまでいくつかの著名な研究報告があった。例えばトゥッチ（Tucci 1988 [1980]）は「民俗宗教」（folk religion）、そしてスタン（Stein 1972 [1962]）は「無名の宗教」（nameless religion）と呼び、これら無定形かつ多様なチベットの土着宗教を具体的な事例を交えて紹介した。また、ネベスキー・ヴォイコヴィッツ（Nebesky-Wojkowitz 1993 [1956]）は、その大著『Oracles and Demons of Tibet』（チベットの神託と悪霊）の中で、チベット人の日常生活に密接に関わる様々な神霊や現世の護法神（*'jig rten pa'i srung ma*）とその儀軌に関して詳述した。

これら先駆的な研究にも関わらず、日本だけでなく世界的に見てもチベットの民間信仰に関する研究は、ボン教や仏教の研究に比べ極端に少ない。このような状況を少しでも改善するため、儀軌書のあるものから文献資料を蓄積し、それと実際の儀礼や習俗との比較を行うことが急務と思われる。本稿はそのうち、文献資料蓄積の試みの第一歩である。

本報告では、ラサで現在最も広範に行われている儀礼のひとつ、悪霊ミカ祓いを扱いたい。他にも「龍神を鎮める儀礼」（*klu gtor*）や「魂を呼び戻す儀礼」（*bla 'gug tshe 'gug*）など様々な民間習俗が存在するが、これらは病人に特化した、いわば「非日常」の儀礼である。それに対してミカの呪詛祓いはその性格ゆえ、老若男女、聖俗、健常者・病人すべての人々が常にその対象となる。多くのチベット人にとって最も身近なミカ祓いを最初に扱うことは、これから以下に示す祈祷書の具体的な内容やその典型的な構造からも、あまり紹介されてこなかったチベットの民間宗教の世界へのいわば「導入部」として、非常にふさわしいと考えられる。

なお筆者は、2007年以降2012年冬まで、毎年一年の半分以上を中国チベット自治区ラサに在任してきた。本稿で紹介する祈祷書や習俗のデータなどは、この期間に遂行された野外調査の中で、現地ラサのチベット人インフォーマントたちから蒐集したものである。

## 2 ミカの呪詛返しについて

まず「ミカ」という言葉であるが、口語では噂やゴシップといった程度の意味になる。しかしながら噂という行為は、人間が他人を羨望し、妬み、怨み、呪詛のある言葉を吐き広めるものとの認識から、ミカは悪霊の仕業であるばかりでなく、霊そのものであるとさえ感得されている。ミカの呪いの対象となるのはおのずと、*rgyu yod pa* (富のある者)、*rnam pa yod pa* (美しい者)、*dbang cha yod pa* (権力のある者) などになるが、逆に、社会的・経済的に落伍した者、批難・侮蔑の対象となる者などに対しても、世間は「噂する」ことから、ミカの餌食となると考えられている。

現代のラサ人にとって最も一般的なミカ封じの習俗は、メロン (*me long*) やグミ (*dgu mig*) と呼ばれる御守であろう。メロンとは、金属でできた小さい円盤状のキーホルダーのようなもので (写真1)、九官八卦図<sup>2)</sup> であるシバホ (*srid pa ho*) が描かれている。裏面には「オム」の真言が彫られていることもあるが、何も描かれず鏡のようになっていることも多く (「メロン」は元来「鏡」の意味である)、文字通りミカなどの悪霊を「撥ね返す」効力があることを表わしている。またグミとは、9つの小穴の空いた金属の小片で、古代・中世のチベットにおいては、これらたくさんのグミを編み合わせて兵士の鎧を造成した。「9」という数字は呪術的な力があるとされ、「9の眼」を意味するグミは、周囲の敵や悪霊から身を護ると信じられている。これらメロンとグミの組み合わせの御守は「ミカ封じ」のため、多くのチベット人、特に男性が身に携える。

また、ミカの呪いに最も脆弱なのは乳幼児や子供とされ、独特の風習がラサに残っている。まずひとつには、ラサの三大寺のひとつであるセラ寺の馬頭明王 (*rta mgrin*) に捧げられているバターランプの煤を子供の鼻の頭に塗る習慣である (写真2)。可愛い子供や赤ん坊は周囲の嫉妬の的となるうえ、彼らはその出生から間もないせいか、ミカやテプラン (*the'u rang*)<sup>3)</sup> と呼ばれる悪霊たちと交感してしまう霊能力があると信じられている。鼻の頭を黒く塗り、顔を醜く見せることで、ミカの呪いを避ける狙いがある。また、ラサ周辺の農牧地区のあたりでは、生まれてきた子供に、「犬の糞」 (*khyi skyag*) や「豚の糞」 (*phag skyag*) といった汚穢な名を意図的に与えることがある。これもミカ除けの一種であり、周囲の人々の嫉妬心を抑え、ミカの呪詛から護る働きがあると考えられている。

一方、2006年の青藏鉄道の開通以来、アムド (青海省) やチャンタン (北チベッ

トの高原) 起源のものであろうミカ封じの風習も、この地方の多くの巡礼者たちを通してラサに伝えられてきている。それは、ミカ霊の憑代 (gta'ma) と思われる石板である。写真3は、人 (mi) の口から、「口」を意味するチベット語の kha の字が右渦巻状に発生する様子を動的に捉えた絵柄で、なかなか趣向を凝らしたものと見える。写真4は、中心に眼を置き、そのすぐ下に kha bzlog (口を封じる) の字が見える。そして同心円状に、ちょうど百の kha の字が四重にわたって彫られ、そして最後は次の文句でしめられている。「溢れ出る一百もの呪いの口、一千もの呪いの口、その心それぞれを追い払え、病を追い払え、敵を追い払え、争いを追い払え！日々ある四方八方<sup>4)</sup>からの邪悪な話、ミカのすべてをジョオ！ジョオ！祓え！祓え！オムマニペメフム、シー<sup>5)</sup>！」(brgya kha mer mer stong kha sems re bzlog nad bzlog dgra bzlog dmag bzlog nyi ma phyogs bzhi mtsam kyi gtam ngan mi kha thams cad b+h+yo b+h+yo bzlog bzlog oM ma Ni pad+me hUM hrI:) 後者の石板はその文句から、憑代とともに祈願を表わすものと思われる。また、眼が描かれているのは、テキストにも見られるよう (fol. 11a)、ゴシップが口だけではなく視線そのものでもあることを表わしていると言える<sup>6)</sup>。両者の石板とも、ラサの薬王山裏、サンゲドゥンクの祈祷場で筆者が2011～2012年に見かけたものである。

最後に紹介するミカ封じの呪術は、最も有効で正当であるとみなされているカウンター呪術、本稿のテーマである祈祷書 *Mi kha'i bzlog 'gyur* の読経である。家屋や僧院など屋内で催される多くのチベットの祈祷とは違い、ミカを追い出すそれは、ミカ自体が発生する人々の雑踏の中で行われる。ラサでいえば、中心街のバルコル周辺の路地である。祈祷者は主にアムドやカムからのニンマ派<sup>7)</sup>の僧侶や在家行者たちで、数人の組でリズムよく手を叩きながら読経する(写真5)。祈祷の時期は巡礼者の多い、農閑期である冬11～1月頃がピークであり、自身のミカ封じのため、チベット人巡礼者たちは道すがら彼らにお布施を施す。

ここで興味深いのは、祈祷者たちが手を叩くその仕草である。このパチパチと鳴らす音でミカを脅し退散させるらしいのだが、彼らによると、両手は互いにぴたと合わせるよう平行に叩くのではなく、やや交叉させないといけない(写真5では分かりにくい)。平行にして叩くと我々にも馴染みの「称揚」や「歓迎」の意味になり、「追い返す」(zlog pa) ためには、厳密には、両掌が合わさる瞬間、やや十字になるよう交叉させて叩かなければ呪力がないという<sup>8)</sup>。

さて、読経されるミカのテキストであるが、以下のような構造となっている。([ ] は時制を示す。)

1. ミカの召喚, 呼び掛け [現在]
2. ミカのやって来たそのありさまの陳述 (罪状1: 呪殺) [現在から過去を回顧]
3. ミカの変幻するそのありさまの陳述 (罪状2: 高慢の虚言) [現在から過去を回顧]
4. 古代チベットにおけるミカの悪行に関する陳述 (罪状3: ミカ = 風評を流す)  
[現在から過去を回顧]
5. ミカを東方に誘導し, 追い払う [現在]
6. パドマサンバヴァが, ミカへ「身体」と「携帯品」を付与する [過去]
7. ミカ祓いの最後の締め [現在]
8. 奥書

まずこの祈祷書のタイトルに於いて, ミカの悪霊祓いは古代チベットの「阿闍梨」パドマサンバヴァが行じたものと明言される。そして祈祷書は, 今現在危害を齎しているミカへ呼び掛け, 過去にミカが犯した罪を長々と具体的に列挙していく。そのあとミカをチベットから東方に誘導するよう試みられる。そして忽然とパドマサンバヴァが登場し, ミカが確実に追放されるよう「身体」と「携行品」を付与する。そして最後に再び目の前のミカに向かって, 去っていくように改めて促す。

このテキストの内容の特徴に関して以下の二点が指摘できるだろう。まず第一に, チベット人にとって身近な動物や神獣, 歴史上の有名人物, そしてチベット民俗の現世の神々 (*'jig rten gyi lha*) が多数登場し, 非常に彩り豊かな内容となっている。また全体を俯瞰すると, 前半にはミカの罪状を洗い出し, 後半には身近にある憑代のようなものを与えてチベットから追放するという, 俗人にも理解しやすい, 物語性に富む内容となっている。その喚起的なストーリー展開が, 噂話という俄かには捕らえ難い社会的事象を, 物語の世界の中で観念的に実体化させ, つまりは, 操作しやすい霊的実在に変換させて, 祓っていく過程であることが分かる。ここで, 人類学者 Tambiah (1985) や Bloch (1989) などの主張する呪術儀礼の理解の枠組みが思い出されてもよいだろう。例えば Tambiah (1985: 77) はこう言う。

……呪術儀礼の意味論とは, 科学にあるような「真偽」の標準では必ずしも裁断されるべきものではない。異なった標準と目的性でそうすべきだ。(呪術的) 儀礼に合致する目的とは, 「説得力」(persuasion), 「概念化」(conceptualization), 「意味の膨張」(expansion of meaning) などである……

呪術の意味論とは, 厳格な因果律とそれに基づく法則性で構成された科学という世界観とは相容れるものではなく, それ独自の文化的・歴史的枠組みによって目的を達

成しようとする。ミカ祈祷書の内容の具体性は、パドマサンバヴァの宗教的権威とともに、抗いようのない説得力、ある種の真正性を祈祷そのものに与えつつ、噂話という一過性的で不定形な現象を、霊的実在として対象化・概念化させるのである。

テキストの第二の特徴は、時制の構造である。祈祷の行われている現在とパドマサンバヴァの生きていた過去を並置させて、時間感覚を過度に不鮮明なものにしている。現在と古代の時間を相互に交錯・浸透させるなかで、祈祷者がミカと相対して諫め誘導するという所作を通じて、自身とパドマサンバヴァとの類似性を際立たせ、いわば隠喩的に後者と連結していくような構造が確認できる。そこで目指されているものは、パドマサンバヴァの加持力を祈祷者を媒介に今この場に立ち上げるという劇的な効果であるといえよう。これは上の Tambiah のコメントでいえば「意味の膨張」の局面のひとつであるとも言えるかもしれない。

最後になるが、二点、読者の注意を促したいと思う。ひとつは、「～について噂話をする」を意味するチベット語の語句「～ la mi kha gzugs」のニュアンスである。動詞である *gzugs* は、「立てる」「建立する」「突き刺す」などの意味で、直訳は「～にミカを刺し立てる」となる。ミカ＝噂話のもつ邪悪で攻撃的な意味合いが、言語表現の中にも反映されているのが分かる。本稿では、この原語に忠実に訳した。また、*gzugs* は他動詞で *mi kha* はその目的語であるが、テキスト中、前者を自動詞的に、後者をその主語のように扱っていると思われる箇所があった（例えば、fol. 5b, 注 154 参照）。これはミカを自律性のある実体として捉えた結果の、半ば自覚的な混乱のようにも思える。別の表現で言い換えると、上に指摘したミカの「概念化」という捕獲のプロセスに於いて、（祈祷者の想定する）悪霊の主体性が現われ出たものと解釈できなくもない。

そして二点目は、本稿で訳出した *Slob dpon pad+mas mdzad pa'i mi kha'i bzlog 'gyur bzhus so* の祈祷書およびその類書は、2012年現在、中国・チベット自治区内ではその印刷・販売が禁じられている。これは、2006年前後以降からの措置であるらしい。理由は定かではないが、中国や漢民族に対する批判的な文言が含まれるためだと思われる（fol. 2a～2b）。

### 3 むすび

ミカ祓いの祈祷は、チベットの宗教文化において悪霊調伏の象徴ともいえるグルリ

ンポチェにその加持力を依っている。これはチベットの民間信仰において、典型的な特徴のひとつであると言えよう。しかし最も注目すべきは、この祈祷のテキストに提示されている世界観である。抽象的かつ教義的で、インド仏教の影響の色彩の濃いチベット仏教の祈祷に比して、ミカ祓いのそれは、極めて原始的なチベットの信仰形態の名残が見受けられる。小稿の目的は、その伝統風習の一端を鮮明にすることによって、チベットの、ひいては中央アジアの民間信仰の儀礼研究に僅かながら寄与することにある。

#### 4 テキスト

筆者が入手したテキストは三種類ある。まず、2010年の末頃にラサ・バルコル近くの道端でミカ祓いの読経をしていたナクチュ出身のニンマ派の在家行者からコピーを入手した(テキストA)。コピーのコピーであるため、やや印刷状態が鮮明ではない箇所がある。幸い、同タイトルのミカのテキストが大阪・国立民族学博物館の図書室に所蔵されていることが判明し(資料ID: F106000914)、前者のテキスト中で不明瞭な箇所は、後者(テキストB)を参照にした。このテキストA・Bにおいて、すべてのフォリオのすべての行において文字の配置は全く同じである。ただ、スペルの異なる箇所が約十箇所あり、また、両テキストの文字の形態を細かく見比べると若干の差異が観察されることから、この二つはそれぞれ異なる版木から印刷されたものであると考えられる。

第三のテキストは、インド・ダラムサラ発行の *mi kha'i bzlog bsgyur* (pp. 14–25 in *sdig bshags gser gyi spu gri dang/ mi kha'i bzlog bsgyur/ rgya nag skag bzlog bcas bshugs so* [Tibetan Cultural Printing Press Dharamsala – 176215(H.P.)]) である。このダラムサラ版には、前者二つのテキストにはないセンテンスが数行含まれている一方(注66)、テキストA・Bにあるような奥書がない。また、誤記も比較的少ない。

以下に提示するテキストは、上のテキストAを底本とした。他の二種のヴァリエント(テキストB及びダラムサラ版)において当該字句の表記が異なる場合、それらを注に示した。なお、凡例は以下のように定める。

- ・ テキストのローマ字化の転写方式は拡張ワイリー方式<sup>9)</sup>に準ずる。なおテキストで多用されている様々な特殊記号であるが、それらもこの方式で変換した。読者の便宜のため、それらの対応表を本節の最後に載せる。
- ・ 上記のダラムサラ版において、テキストAの当該字句に対して繰り返し同じバ

ターンの異種表記が頻出する場合、注を省略し、[ ]内にその表記を示した。

なお、テキストAの著者はその奥書によれば、リメー (ris med) のテンバ・ギャツォとあるが、この人物は、東チベットのダクゴンパ (Brag dgon pa) 四世・ジャムヤン・テンバ・ギャツォ (\*jam dbyangs bstan pa rgya mtsho) [1868~1941]<sup>10)</sup> だと思われる。

[1a] @##/ slob dpon pad+mas mdzad pa'i mi kha'i bzlog 'gyur bzhugs so //

[1b] @###/ oM AHhUM badz+ra gu ru pad+ma sid+dhi hUM/hUM hUM/ b+h+yo b+h+yo bzlog bzlog /mi kha'i bu mo sha za ma/ /mi kha'i bu mo khrag 'thung ma/ /mi kha'i bu mo kha mang ma/ /mi kha'i bu mo mig dmar ma/ /mi kha'i bu mo rna dmar ma/ /khyod ni mi shes dgu shes shes/ /khyod ni mi 'gro dgu

[2a] @##/ 'gro byed/ /khyod ni mi na dgu na stong<sup>11)</sup> / /khyod ni mi lab dgu lab byed/ /mi kha'i bu mo tshur la nyon/ /nag mo tig ta mgo zing<sup>12)</sup> ma/ /khyod dang po yong yong ga nas yong/ /dang po rgya bod mtshams nas yong/ /mi kha mang po rgya la gzugs<sup>13)</sup> / /rgya nag rgyal pos bod la

[2b] bsgyur/ /rgya 'dre mang po sde la logs/ /yul ya<sup>14)</sup> lung pa zer ba na<sup>15)</sup> /ltas ngan mi kha gzugs<sup>16)</sup> 'dug pas/ /rta la rta nad zer tsam byung/ /mi la mi nad zer tsam byung/ /byis pa bu mo rim gyi<sup>17)</sup> gnod/ /de yang mi kha khyod dang 'phrad pas lan/ /ltas ngan mi kha dgra la bsgyur/ /kham chu nag po bzlog tu gsol/ /mi kha khyod la<sup>18)</sup> yong ba'i lam kha nas/ /gangs stod seng+ge de dang 'phrad 'dug pas/ /mi kha'i kha nas 'di skad zer/ /seng+ge ma bu'i skyid

[3a] @##/ /pa la/ /g.yu ral ngom zhing gangs stod 'grim/ /de nas zhag gsum song ba dang/ / seng+ge ma bu kha bas mnan/ /de yang mi kha khyed dang 'phrad pa'i lan/ /ltas ngan mi kha dgra la \u0FBE<sup>19)</sup> /kham chu nag mo dgra la \u0FBE<sup>20)</sup> /mi kha khyod dang<sup>21)</sup> yong ba'i lam kha nas/ /spangs<sup>22)</sup> stod sha ba de dang 'phrad 'dug pas/ /mi kha'i bu mo'i kha nas 'di skad zer/ /sha ba ma bu'i skyid pa la/ /rwa rtse ngom zhing spangs<sup>23)</sup> stod 'grim/ /de nas zhag gsum song ba dang/

[3b] sha ba ma bu ling bas<sup>24)</sup> bsad/ /de yang mi kha khyod dang 'phrad pa'i lan/ / ltas ngan mi

kha \u0FBE/<sup>25)</sup> /kham chu nag mo bzlog \u0FBE/<sup>26)</sup> /mi kha khyod yong pa'i<sup>27)</sup> lam kha nas/ /  
brag stod rgod po de dang 'phrad 'dug pas/ /mi kha'i kha nas 'di skad zer/ /thang dkar rgod  
po'i skyid pa la/ rtse sgro ngom zhing brag stod 'grim/ /de nas zhag gsum song ba dang/ /thang  
dkar rgod po g.yang la lhung/ /de yang mi kha khyod dang 'phrad pa'i lan/ /Itas ngan mi kha \\  
u0FBE/ [dgra la bsgyur/] /kham chu nag mo \u0FBE/<sup>28)</sup> /mi kha khyod yong pa'i<sup>29)</sup> lam kha  
nas/ /lcang gling ljon<sup>30)</sup> mo de dang 'phrad/ /mi kha'i kha nas 'di skad zer/ /'jol mo ma bu  
skyid pa la/ /gsung

[4a] @#/ /snyan ngom zhing lcang mtha' bskor/ /de nas zhag gsum song ba dang/ /'jol mo skya  
khra hor pas<sup>31)</sup> bsad/ /de yang mi kha khyod dang 'phrad pa'i<sup>32)</sup> lan/ /Itas ngan mi kha \u0FBE/  
[dgra la bsgyur/] |kham chu<sup>33)</sup> nag mo \u0FBE/ [bzlog tu gsol/] /mi kha khyod yong pa'i<sup>34)</sup> lam  
kha nas/ /mtsho stod nya mo de dang 'phrad/ /mi kha'i bu mos 'di skad zer/ /nya mo ma bu'i  
skyid pa la/ /seng<sup>35)</sup> mig ngom zhing mtsho mtha' bskor/ /de nas zhag gsum song ba dang/ /nya  
mo dol dang lcags kyus zin/ /de yang mi kha de dang 'phrad pas lan/ Itas ngan mi kha \u0FBE/  
[dgra la bsgyur/] /kham chu nag mo \u0FBE/ [bzlog tu gsol/] /de yang mi kha'i yong tshul

[4b] tsam<sup>36)</sup> |[/] de nas mi kha'i sprul<sup>37)</sup> tshul ni/ /re dga'<sup>38)</sup> ri bo'i rtse la bsod<sup>39)</sup> / /ri rgyal  
lhun po nga yin zer/[/] |[/] re dga' ['ga'] rgya mtsho'i 'gram du bsod [sdod] / /mtsho sman  
rgyal mo<sup>40)</sup> nga yin zer/ /re dga' ['ga'] bar snang mtshams la bsod [sdod]/ /lha srin sde brgyad  
nga yin zer/ /re dga' ['ga'] brag dmar rlung<sup>41)</sup> la bsod [sdod]/ /phrag<sup>42)</sup> dmar rlung<sup>43)</sup> btsan  
nga yin zer/ /re dga' ['ga'] mkhar gyis<sup>44)</sup> rtse la bsod [sdod]/ /steng gi pho lha nga yin zer/ /re  
dga' ['ga'] khyim gyis [gyi] phugs<sup>45)</sup> su<sup>46)</sup> bsod [sdod] / /khyim gyis [gyi] khyim lha nga yin  
zer/ /re dga' ['ga'] mdzod kyi phug su<sup>47)</sup> bsod [sdod]/ /mdzod kyi mdzod lha nga yin zer/ /  
mdzod lha spun gsum yang<sup>48)</sup> bzhengs

[5a] @#/ /nas| Itas ngan mi kha dgra la \u0FBE/ [bsgyur/] /kham chu nag mo \u0FBE/ [bzlog  
tu gsol/] /re dga' ['ga'] gog<sup>49)</sup> sa'i phugs su bsod [phug tu sdod]/ /thabs<sup>50)</sup> kyi thabs [thab] lha  
nga yin zer/ /thabs [thab] lha sphun<sup>51)</sup> gsum yar bzhengs nas/ /Itas ngan mi kha \u0FBE/ [dgra  
la bsgyur/] /kham chu nag mo \u0FBE/ [bzlog tu gsol/] /re dga' ['ga'] skad<sup>52)</sup> kyi rtse ru bsod  
[sdod]/ /skal gyi skal [skas kyi skas] lha nga yin zer/ /skal [skas] lha gdung ring yar bzhengs  
nas/ /Itas ngan mi kha \u0FBE/ [dgra la bsgyur/] /kham chu nag mo \u0FBE/ [bzlog tu gsol/] /  
re dga' ['ga'] ra ba'i phug su bsod [tu sdod]/ /phyugs kyi phyugs lha nga yin zer/ /phyugs lha

spun gsum yar bzhengs nas/ /ltas ngan mi kha \u0FBE/ [dgra la bsgyur/] /kham chu nag mo \u0FBE/ [bzlog tu gsol/] /re dga' ['ga']

[5b] sgo yi rgyab tu bsodod [sdod]/ sgo yi sgo lha nga yin zer/ /rgyal chen sde bzhi yar bzhengs nas/ /ltas ngan mi kha \u0FBE/ [dgra la bsgyur/] /kham chu nag mo \u0FBE/ [bzlog tu gsol/] / de yang mi kha'i sprul tshul yin/ /dang po dpal gyis<sup>53</sup>) bsam yas su[[/]] [[/]]dbu rtse'i rgyal po'i pho brang du/ /rgyal po khri srong lde'u btsan la/ /mgo nag yongs kyi mi kha gzugs [gzug]/ / lha sras mu khri btsan po la/ /byis<sup>54</sup>) pa yongs kyi mi kha gzugs [gzug]/ /slob dpon pad+ma 'byung gnas la/ /lha 'dre yongs kyi mi kha gzugs [gzug]/ /mkhan po bo d+hi swa sto<sup>55</sup>) la/ / ban+d+he yongs kyi mi kha gzugs [gzug]/ /lo chen<sup>56</sup>) bai ro tsa na la/ /lo tsa<sup>57</sup>) yongs kyi mi kha gzugs [gzug]/ /dge slong nam mkha'i snying po la/ /chos pa

[6a] @#/ /yongs kyi mi kha gzugs [gzug]/ /sna rnam rdo rje bdud 'joms la/ /sngags 'chang yongs kyi mi kha gzugs [gzug]/ /btsun mo bza' yi dmar brgyan<sup>58</sup>) la/ /bud med yongs kyi mi kha gzugs [gzug]/ /rgyu sbyor yon gyi bdag po la/ /'gro ba yongs kyi mi kha gzugs [gzug]/ / bod 'bangs lha min<sup>59</sup>) thams cad la/ /rgyal khams yongs kyi mi kha gzugs [gzug]/ /gzugs chen<sup>60</sup>) mi yi mi kha \u0FBE [[gzug] |gzugs med lha 'dre'i mi kha \u0FBE / [gzug] /yod na yod pa'i mi kha gzugs [gzug]/ /med na med pa'i mi kha gzugs [gzug]/ /mi kha'i bu mo tshur la nyon/ /khyod dang po rgya 'dre spun dgu ma/ /bar du

[6b] 'dre mo spun dgu ma/ mtha' ma mi kha spun dgu ma/[[]] /[[[]]bsgyur yang bsgyur la bzlog yang<sup>61</sup>) bzlog/ /khyod da ni bsodod<sup>62</sup>) pa'i gnas med de/ /mi kha ma bsodod [sdod] mi kha song/ / khyod mi kha'i lam bstan shar la yod/ /khyod 'di nas phar la song rtsa<sup>63</sup>) nas/ /thang gcig phar 'dus tshur 'dus yod/ /thang gsum 'dus pa'i dkyil 'khor yod/ /the'u rang byis pa'i tshogs sa yin/ /de ru ma 'dug phar la song/ /de nas phar la song tsa nas/ /ri de phar 'dus tshur 'dus yod/ / rigs<sup>64</sup>) gsum 'dus pa'i dkyil 'khor yod/ /son<sup>65</sup>) 'dre pho mo tshogs sa yin/ /de ru ma 'dug phar la song/<sup>66</sup>) /khod 'di nas phar song

[7a] @#/ tsa na/ shar phyogs kong yul zhes bya nas/ /mi lha lha ru bstan gyis<sup>67</sup>) 'dug /mi kha klu ru bstan gyis [gyi] 'dug /ltas ngan g.yang du 'gug gi 'dug /khyod mi kha sdod pa'i gnas med do/ /mi kha ma sdod mi kha song/ /lha ru bstan pa'i sa ru song/ /klu ru bstan pa'i sa ru song/ /g.yang du 'dug<sup>68</sup>) pa'i sa ru song/ /khyod mi kha mi<sup>69</sup>) sdod mi kha song/ /mi kha'i bu

mos 'di skad zer/ /slob dpon chen po bdag la son<sup>70)</sup> / /pad+ma 'byung gnas bdag la gson/ /nga mi kha ma sdod 'gro ba la/ /mi kha la 'gro ba'i gzugs cig dgos/ /slob dpon chen pos 'di

[7b] skad gsungs/ /khyod mi kha'i bu mo tshur nyon dang/ /mi kha la 'gro ba'i gzugs med na/ /srog<sup>71)</sup> ma sbug stong mi kha'i gzugs/ /mi kha gzugs dang sgrogs ni<sup>72)</sup> song/ /mi kha'i lus la mgo med na| rdza ma dmar po mi kha'i mgo /mi kha mgo dang \u00FBE<sup>73)</sup> /mi kha'i mgo la rlad<sup>74)</sup> med na/ /sbang ma chab chob mi kha'i klad/ /mi kha klad dang \u00FBE/ ['grogs nas song/ /mi kha'i mgo la skra med na/ /phag bre<sup>75)</sup> nag po mi kha'i skra/ /mi kha skra dang \u00FBE/ ['grogs nas song/ /mi khar nyan pa'i rna ba med na/ /lab zhogs nyung zhogs mi kha'i rna ba/ /mi kha rna ba dang \u00FBE/ ['grogs nas song/ /mi kha la lta ba'i mig med na/ /nag chung sran ma mi kha'i mig /mi kha mig dang \u00FBE/ ['grogs nas song/ /mi kha

[8a] @#/ /la snom ba'i [pa'i] sna med na/ /rdza lung dmar po mi kha'i sna/ /mi kha sna dang \u00FBE/ ['grogs nas song/ /mi khar sdong<sup>76)</sup> ba'i kha med na/ /g.yer ma kha tsha mi kha'i kha/ /mi kha kha dang \u00FBE/ ['grogs nas song/ /mi kha la za ba'i so med na/ /mgon<sup>77)</sup> bu khogs<sup>78)</sup> stong mi kha'i so/ /mi kha so dang \u00FBE/ ['grogs nas song/ mi khar lab pa'i lce med na/ /za ma dmar chung mi kha'i lce/ /mi kha lce dang \u00FBE/ ['grogs nas song/ /mi khar bsam pa'i snying med na/ /bra bo zur gsum mi kha'i snying/ /mi kha snying dang \u00FBE/ ['grogs nas song/ mi khar snyabs<sup>79)</sup> pa'i lag med na/ /dbang po lag pa mi kha'i lag [ /mi kha lag dang \u00FBE/ ['grogs nas song/ mi khar gyon pa'i gos med na/ /dra<sup>80)</sup> ba nag po mi kha'i gos/ /mi kha gos

[8b] dang \u00FBE/ ['grogs nas song/ /mi kha la 'ching ba'i sked med na/ /gre<sup>81)</sup> thag 'khor 'ching mi kha'i sked/ /mi kha sked dang \u00FBE/ ['grogs nas song/ /mi kha la 'dzugs pa'i rkang med na/ /ra tshe lug tshe mi kha'i rkang/ /mi kha rkang dang \u00FBE/ ['grogs nas song/ /mi kha la gyon pa'i lham med na/ /dmigs<sup>82)</sup> pa kha rag mi kha'i lham/ /mi kha lham dang \u00FBE/ ['grogs nas song/ /mi kha'i mgo la zhwa med na/ /ra sogs<sup>83)</sup> lug sogs<sup>84)</sup> mi kha'i zhwa/ /mi kha zhwa dang \u00FBE/ ['grogs nas song/ /mi kha la zhon pa'i rta med na/[ ]/[ ]bra ba dkar nag mi kha'i rta/ /mi kha rta dang \u00FBE/ ['grogs nas song/ /mi kha la kyur ba'i gri med na/ /lcags gri ngar ma mi kha'i gri /bzangs<sup>85)</sup> gri dmar po mi kha'i gri /shing gri sno<sup>86)</sup> med mi kha'i gri /mi kha khyod gri dang \u00FBE/ ['grogs nas song/ /mi kha la mda' dang zhu<sup>87)</sup> med na/ /

[9a] @#/ bskyer<sup>88)</sup> mda' bskyer [skyer] gzhu mi kha'i gzhu/ /span<sup>89)</sup> mda' span [spen] gzhu mi kha'i mda' /mi kha khyod mda' dang gzhu la 'grogs las<sup>90)</sup> song/ /mi kha la za ba'i zas med na/ /sngo<sup>91)</sup> tshod tshod med mi kha'i zas/ /sgogs<sup>92)</sup> tsong ya<sup>93)</sup> phug mi kha'i zas/ /lab zhogs nyung zhogs mi kha'i zas/ /sha zas<sup>94)</sup> rus pa mi kha'i zas/ /chang 'thung spang<sup>95)</sup> ma mi kha'i zas/ /ja 'thung lhav ro mi kha'i zas/ /tshwa bul mar gsum mi kha'i zas/ /zas lhag 'thung lhag mi kha'i zas/ /'thing bu<sup>96)</sup> 'thung shun mi kha'i zas/ /mi kha khyod zas dang 'grogs \u00FBE<sup>97)</sup> /mi kha la bsags pa'i

[9b] nor med na/ /gzar chags pho chags<sup>98)</sup> mi kha'i nor/ /gser dngul zangs lcags mi kha'i nor/ /dar sna gos sna mi kha'i nor/ /'bru sna sna tshogs mi kha'i nor/ /bal mtshon<sup>99)</sup> dkar dmar mi kha'i nor/ |mi kha khyod nor dang 'grogs \u00FBE/ [nas song/] /mi kha brten ba'i kha<sup>100)</sup> med na/ /g.yag ru skyogs mo mi kha'i khar [mkhar]/ /nam mkha' rgyang bu mi kha'i mkhar/ /mi kha mkhar dang \u00FBE/ ['grogs nas song/] /mi kha la 'gro ba'i lam med na/ /rtsa lam chu lam mi kha'i lam/ /thal lam thal shul mi kha'i lam/ /'dre lam skyogs mo mi kha'i lam/ /bdud lam nag mo mi kha'i lam/ /mi kha khyod lam dang 'grogs \u00FBE/ [nas song/]

[10a] @#/ /sbyin bdag mi nor 'khor bcas kyi/ /glud dang chag sgo khyer las<sup>101)</sup> song/ /mi kha'i bu mo ma sdod song/ /sbyin pa'i bdag po 'di dag gis [gi]/ /yar gyis [gyi] mkhar gyi rtse mo nas/ /mar gyis [gyi] than<sup>102)</sup> pa yan chad la/ /lo gcig zla ba bcu gnyis la/ /zhag ma sum brgya drug bcu<sup>103)</sup> yod/ /lus kyi na tsha khur nas song/ /sems kyi sdug bsngal khur las [nas] song/ /mkha'<sup>104)</sup> nas kham chu khur las [nas] song/ /rkyen dang blo<sup>105)</sup> bur khur las [nas] song/ /dpon po'i 'gong po'i<sup>106)</sup> khur las [nas] song/ /nyes pa'i chag sgo khur las [nas] song/ /mi kha gling bzhi<sup>107)</sup> khur las [nas] song/ /

[10b] mi kha ma sdod mi kha song/ /rtsigs<sup>108)</sup> pa'i mkhar la ma chags cig<sup>109)</sup> /steng gi mi la ma chags cig [shig] /'og gi phyugs la \u00FBE<sup>110)</sup> /sgo yi khyi la ma \u00FBE<sup>111)</sup> /skye<sup>112)</sup> pa pho la ma \u00FBE/ [=]/ /za ma mo la ma \u00FBE/ [=]/ /byis pa chung la ma \u00FBE/ [=]/ /stabs<sup>113)</sup> pa'i zhing la ma gnod cig /dkar gyi zho la ma chags \u00FBE/ [shig] /brtsos pa'i chang la ma \u00FBE/ [=]/ /gser dang dngul la ma \u00FBE/ [=]/ /sngon mo<sup>114)</sup> g.yu la \u00FBE/ [=]/ /dkar mo nas la ma \u00FBE/ [=]/ /rgyan<sup>115)</sup> pa'i gos la ma \u00FBE/ [=]/ /zhon pa'i rta la ma chags cig [=]/ /smug chung dre'u<sup>116)</sup> la ma chags cig [=]/ /khyung dkar mdzo la ma \u00FBE<sup>117)</sup> /'dod 'jol<sup>118)</sup> ba la ma chags cig [=]/ /se le 'bri la ma chags cig [=]/ /g.yang<sup>119)</sup> dkar

[11a] @#/ /lug la ma chags cig [=/] /tshe tshe ra la ma chags cig/<sup>120</sup> /lcags dang zangs la ma chags cig [shig] /brgya kha mang gis gling pa<sup>121</sup> bzlog /stong mig mang gis ltas<sup>122</sup> pa bzlog /rgyal kham mi yis gling pa [gleng ba] bzlog /mi kha ma sdod mi<sup>123</sup> song/ /b+h+yo: b+h+yo: bzlog bzlog<sup>124</sup> //gangs ljongs ris med bstan pa rgya mtsho'i bdag /ngo mtshar bka' babs bdun gyis 'khor lo'i bsgyur/ /'jam dpal dbyangs dngos mkhyen brtse dbang po yi/ /ring lugs bstan pa dar zhing rgyas gyur cig/ sarba mang+ga laM//

上のテキスト表記に於いて使用された拡張ワイリー方式の変換記号と原テキスト中の特殊記号の対応表

拡張ワイリー方式の変換記号	テキスト中の特殊記号
/	┆
	┆ ┆
@	ᳵ
#	ᳶ
=	᳷
\u0FBE	᳸

## 5 和訳

凡例

- ・ [ ]内の数字及びアルファベットは、テキスト A (B) のフォリオナンバー。
- ・ ( )内の語は、訳文の補足。
- ・ ダラムサラ版との比較で、語句が異なる場合、よりふさわしいものを選び訳語とした。なお、判断が難しい場合、両者を併記した。

[1a] 阿闍梨パドマサンバヴァの行じられたミカ<sup>125</sup> 祓い

[1b] オムアーフムベンツァグルパマシディフム<sup>126)</sup>！／ フム，フム！ジョオ，ジョオ<sup>127)</sup>！祓え，祓え<sup>128)</sup>！／ 肉食いのミカ女よ／ 血飲みのミカ女よ／ 口の多いミカ女よ／ 赤目のミカ女よ／ 赤耳のミカ女よ／ お前はありとあらゆることを知り／ お前はありとあらゆる場所

[2a] に行き／ お前はありとあらゆる病を撒き散らし／ お前はありとあらゆることを話した／ ミカ女よ，こっちを聞け！／ もつれ髪の子ビ<sup>129)</sup>黒女め／ お前は最初に来たとき，何処から来た？／ 最初（お前は）チベットと漢土<sup>130)</sup>の境から来た／ 多くのミカが漢土で刺し立てられた／ 漢土の王は，（お前の居場所を）チベットに

[2b] 移した<sup>131)</sup> たくさんの揉め事が村々に降ってきた<sup>132)</sup> その谷の名はヤルルン<sup>133)</sup>と呼ばれる／ 邪悪の兆・ミカを刺し立てて／ 馬はいわゆる馬病を患い／ 人はいわゆる人病を患い／ 幼い男女も次第に患う／ これらもミカ，お前と会ったが報い／ 邪悪の兆・ミカを敵に成し立て／ 汚い誹謗中傷が祓えますよう<sup>134)</sup> ミカよ，お前がやって来た道すがら／ 雪山<sup>135)</sup>の獅子と会いながら／ ミカ（お前の）口からこのように言った／ 獅子の母子よ，なんと幸せ

[3a] なことか／ 青緑の鬣を満足気にひけらかし，雪山を練り歩く／ それから三日経った後／ （その）獅子の母子は雪（崩れ）で押しつぶされた／ これもミカ，お前と会ったが報い／ 邪悪の兆・ミカを敵に成し立て／ 汚い誹謗中傷が祓えますよう／ ミカよ，お前がやって来た道すがら／ 草原の高いところにいる鹿と会いながら／ ミカ（お前の）口からこのように言った／ 鹿の母子よ，なんと幸せなことか／ 角の先を満足気にひけらかし，草原の高いところを練り歩く／ それから三日経った後／

[3b] （その）鹿の母子は狩獵<sup>136)</sup>で殺された／ これもミカ，お前と会ったが報い／ 邪悪の兆・ミカを敵に成し立て／ 汚い誹謗中傷が祓えますよう／ ミカよ，お前がやって来た道すがら／ 高い岩壁の鷺と会いながら／ ミカ（お前の）口からこのように言った／ 白い尾をもつ鷺よ，なんと幸せなことか／ 羽を満足気にひけらかし，高い岩壁の上を練り歩く／ それから三日経った後／ 白尾の鷺は絶壁へ落ちた／ これもミカ，お前と会ったが報い／ 邪悪の兆・ミカを敵に成し立て／ 汚い誹

謗中傷が祓えますよう／ ミカよ、お前がやって来た道すがら／ 柳の園のナイチンゲールと会いながら／ ミカ（お前の）口からこのように言った／ ナイチンゲールの母子よ、なんと幸せなことか／ 鳴き

[4a] 声を満足気にひけらかし、柳の上を飛び回る<sup>137)</sup>／ それから三日経った後／（その）ナイチンゲールはハイタカに殺された／ これもミカ、お前と会ったが報い／ 邪悪の兆・ミカを敵に成し立て／ 汚い誹謗中傷が祓えますよう／ ミカよ、お前がやって来た道すがら／ 湖<sup>138)</sup>で魚と会いながら／ ミカ女はこのように言った／ 魚の母子よ、なんと幸せなことか／ 金色の眼を満足気にひけらかし、湖の中を泳ぎ回る<sup>139)</sup>／ それから三日経った後／（その）魚は網と釣り針で捕らわれた／ これもこのミカと会ったが報い／ 邪悪の兆・ミカを敵に成し立て／ 汚い誹謗中傷が祓えますよう／ これがミカのやって来てほしいの

[4b] そのありさまである／ そしてミカのその変幻の仕方であるが／ 時には山の頂上に居て／ 須弥山とはこの私よ、と言い／ 時には湖畔に居て／ 湖の女神とはこの私よ、と言い／ 時には空の中に居て／ 八部衆<sup>140)</sup>とはこの私よ、と言い／ 時には赤岩の中に<sup>141)</sup>居て／ 赤岩中のツェン<sup>142)</sup>とはこの私よ、と言い／ 時には砦の頂に居て／ 上に座すボラ<sup>143)</sup>とはこの私よ、と言い／ 時には家の奥に居て／ 家のキムラ<sup>144)</sup>とはこの私よ、と言い／ 時にはお蔵の奥に居て／ お蔵のゾラ<sup>145)</sup>とはこの私よ、と言い／ ゾラの三兄弟がお立ち

[5a] になり／ 邪悪の兆・ミカを敵に成し立て／ 汚い誹謗中傷が祓えますよう／ 時には灰<sup>146)</sup>のある場の奥に居て、竈のタプラ<sup>147)</sup>とはこの私よ、と言い／ タプラの三兄弟がお立ちになり／ 邪悪の兆・ミカを敵に成し立て／ 汚い誹謗中傷が祓えますよう／ 時には梯子の先に居て／ 梯子のケラ<sup>148)</sup>とはこの私よ、と言い／ ケラの梁<sup>149)</sup>がお立ちになり／ 邪悪の兆・ミカを敵に成し立て／ 汚い誹謗中傷が祓えますよう／ 時には中庭の中に居て／ 家畜のチュクラ<sup>150)</sup>とはこの私よ、と言い／ チュクラの三兄弟がお立ちになり／ 邪悪の兆・ミカを敵に成し立て／ 汚い誹謗中傷が祓えますよう／ 時には

[5b] 門戸の後ろに居て／ 門のゴラ<sup>151)</sup>とはこの私よ、と言い／ 四天王がお立ちになり／ 邪悪の兆・ミカを敵に成し立て／ 汚い誹謗中傷が祓えますよう／ これら

がミカのその変幻の仕方である／ 最初に吉祥のサムイェー寺<sup>152)</sup>で／ 頂である王の宮殿で／ ティソンデツェン王<sup>153)</sup>に／ あらゆる俗人たちが<sup>154)</sup>ミカを刺し立て／ 王子であるムティツェンボ<sup>155)</sup>に／ あらゆる子供たちがミカを刺し立て／ 阿闍梨パドマサンバヴァ<sup>156)</sup>に／ あらゆる神と魔がミカを刺し立て／ 僧正シャーンタラクシタ<sup>157)</sup>に／ あらゆる僧侶がミカを刺し立て／ 大翻訳官ヴァイロチャナ<sup>158)</sup>に／ あらゆる翻訳官がミカを刺し立て／ 比丘ナムケー・ニンボ<sup>159)</sup>に／ あらゆる

[6a] 仏教徒がミカを刺し立て／ ナナムドルジェドゥジョム<sup>160)</sup>に／ あらゆる行者がミカを刺し立て／ 女王マルゲン<sup>161)</sup>に／ あらゆる女がミカを刺し立て／ 裕福な施主に<sup>162)</sup> あらゆる人々がミカを刺し立て／ チベットにいるすべての神と人に／ あらゆる国々がミカを刺し立て／ 身体のある人間がミカを刺し立て<sup>163)</sup> 身体のない神や魔がミカを刺し立て<sup>164)</sup> (身体が) あつたらあつたでミカを刺し立て<sup>165)</sup> (身体が) なかったらなかったでミカを刺し立て<sup>166)</sup> ミカ女よ、こっちを聞け！／ お前は最初、九人姉妹の漢<sup>167)</sup>の魔であった／ そして次に

[6b] 九人姉妹の妖女となり／ そして最後に九人姉妹のミカとなった／ どんなに変化しようとも、何度でも追い返す／ お前には、ここに居るべき場所はない／ ミカよ、居留まらずに去るのだ／ ミカよ、指し示されたお前の道は東にある／ お前がここからあちらへちょっと行くと／ 広場があっちこっちから集まったところがある／ 広場が三つ集まった曼荼羅がある／ (それは,) テプラン=子供<sup>168)</sup>の集い場である／ そこにいるな、もっとあっちへ行け／ そこからあちらへちょっと行くと／ 山があっちこっちから集まったところがある／ 山が三つ集まった曼荼羅がある／ (それは,) 男女の生霊の集い場である／ そこにいるな、もっとあっちへ行け／ お前がここからあちらへ

[7a] ちょっと行くと／ 東方のコンボ<sup>169)</sup>と呼ばれる場所になり／ ミカ、(お前は) 神のように躰われる／ ミカ、(お前は) 龍神のように躰われる／ 邪悪の兆は、幸運と見なされ召喚される／ ミカ、お前のいる場は(ここには) ない／ ミカよ、居留まらずに去るのだ／ 神のように躰われる場に去れ／ 龍神のように躰われる場に去れ／ 幸運と見なされ召喚される場に去れ／ ミカ、お前は居留まらずに去るのだ／ ミカ女はこのように言った／ 大阿闍梨よ、私(の言うこと)をお聞きください／ パドマサンバヴァよ、私(の言うこと)をお聞きください／ 私ミカが居留まら

ずに行くのなら／ ミカには行くための姿形が要ります／ 大阿闍梨は／

[7b] このようにおっしゃった。ミカ女よ、こっちを聞け！／ ミカに去るための姿形がないのなら／ 中が空洞の藁をミカの身体（とせよ）／ ミカよ、（この）身体とともに、去れ／ ミカの体に頭がないのなら／ 赤の陶器の壺をミカの頭（とせよ）／ ミカよ、（この）頭と結合し、去れ／ ミカの頭に脳がないのなら／ 酒糟の寄せ集めをミカの脳（とせよ）／ ミカよ、（この）脳とともに、去れ／ ミカの頭に髪がないのなら／ 豚の黒い荒毛をミカの髪（とせよ）／ ミカよ、（この）髪とともに、去れ／ ミカに聞くための耳がないのなら／ 大根の輪切り、カブの輪切り<sup>170</sup>をミカの耳（とせよ）／ ミカよ、（この）耳とともに、去れ／ ミカに見るための眼がないのなら／ 小さな黒豆をミカの眼（とせよ）／ ミカよ、（この）眼とともに、去れ／ ミカに

[8a] 嗅ぐための鼻がないのなら／ 赤い壺の把手をミカの鼻（とせよ）／ ミカよ、（この）鼻とともに、去れ／ ミカに開くための口がないのなら／ 辛い赤唐辛子<sup>171</sup>をミカの口（とせよ）／ ミカよ、（この）口とともに、去れ／ ミカに食べるための歯がないのなら／ 中が空洞の子安貝をミカの歯（とせよ）／ ミカよ、（この）歯とともに、去れ／ ミカに話すための舌がないのなら／ 赤い食べ物のくずをミカの舌（とせよ）／ ミカよ、（この）舌とともに、去れ／ ミカに考えるための心臓がないのなら／ 三角形のソバの実をミカの手（とせよ）／ ミカよ、（この）心臓とともに、去れ／ ミカに伸ばして取る<sup>172</sup>ための手がないのなら／ 手掌参<sup>173</sup>をミカの手（とせよ）／ ミカよ、（この）手とともに、去れ／ ミカに着るべき衣服がないのなら／ 黒い網をミカの衣服（とせよ）／ ミカよ、（この）衣服

[8b] とともに、去れ／ ミカに締めるべき腰紐がないのなら／ ラバをつなぐ縄をぐるっと縛り、ミカの腰紐（とせよ）／ ミカよ、（この）腰紐とともに、去れ／ ミカに踏み立つ足がなければ／ ヤギや羊の肋骨<sup>174</sup>をミカの足（とせよ）／ ミカよ、（この）足とともに、去れ／ ミカに履くべき靴がないのなら／ 蹄やかいば袋<sup>175</sup>をミカの靴（とせよ）／ ミカよ、（この）靴とともに、去れ／ ミカの頭に帽子がないのなら／ ヤギや羊の毛皮の切れ端<sup>176</sup>をミカの帽子とせよ／ ミカよ、（この）帽子とともに、去れ／ ミカに乗るべき馬がないのなら／ 白と黒の地鼠をミカの馬（とせよ）／ （この）馬とともに、去れ／ ミカに携えるべきナイフがないのなら

／<sup>177)</sup> 粗い鉄ナイフをミカのナイフ（とせよ）／ 赤色の銅ナイフをミカのナイフとせよ／ 尖がっていない木のナイフをミカのナイフ（とせよ）／ ミカよ、お前は（この）ナイフを持って、去れ／ ミカに弓と矢がないのなら／

[9a] ケル木材<sup>178)</sup> の弓矢をミカの弓矢（とせよ）／ ペンマ木材<sup>179)</sup> の弓矢をミカの弓矢（とせよ）／ ミカよ、お前は（この）弓矢を持って、去れ／ ミカに食べるべき食べ物が無いのなら／ 生の緑野菜をミカの食べ物（とせよ）／<sup>180)</sup> 大蒜やネギ、大根をミカの食べ物（とせよ）／ 大根やカブの輪切りをミカの食べ物（とせよ）／ 肉を食べて残った骨をミカの食べ物（とせよ）／ 酒を飲むときの酒糟をミカの食べ物（とせよ）／ お茶を飲むときの出酒らしの茶葉をミカの食べ物（とせよ）／<sup>181)</sup> 塩、ソーダ塩、バターの三つをミカの食べ物（とせよ）／ 食べ残し、飲み残しをミカの食べ物（とせよ）／ 底に残った飲み滓をミカの食べ物（とせよ）／<sup>182)</sup> ミカよ、お前は（これら）食べ物を持って、去れ／ ミカに蓄えた

[9b] 富がないのなら／ 割れた杓子や木椀をミカの富（とせよ）／ 金、銀、銅の破片をミカの富（とせよ）／<sup>183)</sup> 絹や衣服の切れ端をミカの富（とせよ）／ 色んな穀物の類をミカの富（とせよ）／ 紅白の羊毛をミカの富（とせよ）／ ミカよ、お前は（これら）富を持って、去れ／ ミカに拠るべき棲家がないのなら／ 曲がったヤクの角をミカの棲家（とせよ）／ ナムカーとギャンブ<sup>184)</sup> をミカの棲家とせよ／ ミカよ、（これら）ミカの棲家を持って、去れ／ ミカに行くべき道がないのなら／（糞でできた）草の道<sup>185)</sup>、尿の跡をミカの道（とせよ）／ 埃の道、埃の跡をミカの道（とせよ）／ 悪霊のねじれた道をミカの道（とせよ）／ 黒い魔の道をミカの道（とせよ）／ ミカよ、お前は（これら）道と慣れ親しみ、去れ／

[10a] 施主とその家族と財と使用人たちの／ルー<sup>186)</sup> と災厄を抱えて去れ／ ミカ女よ、ここに居留まらずに去れ／ これら施主たちの／ 上は家のでっぺんから／ 下は敷居まで／ 一年十二ヶ月／ 三百六十日あるところの／ 身体の病気を担いで去れ／ 心の苦しみを担いで去れ／ 口からの誹謗中傷を担いで去れ／<sup>187)</sup> 外因による邪、突如起る邪を担いで去れ／ 主のゴンボ<sup>188)</sup> を担いで去れ／ 邪悪な災厄を担いで去れ／ ミカ＝噂の話題そのものを担いで去れ／

[10b] ミカよ、居留まるな、ミカよ、去れ／ 建てられた邸宅に執着するな／ 上に

いる人間に執着するな／ 下にいる家畜に執着するな／ 門戸の番犬に執着するな／  
(家の) 男に執着するな／ (家の) 女に執着するな／ 小さい子供に執着するな／  
種を蒔いた畑を害するな／ 白のヨーグルトに執着するな／ 作ったチャンに執着するな／  
金と銀に執着するな／ 青色のトルコ石に執着するな／ 白のハダカ麦に執着するな／  
装飾された衣服に執着するな／ 乗るべき馬に執着するな／ ラバに執着するな／  
ゾ<sup>189)</sup>に執着するな／ 牛に執着するな／ ビ<sup>190)</sup>に執着するな／ 羊

[11a]に執着するな／ ヤギに執着するな／ 鉄と銅に執着するな／ 百もの多くの口が話すのをはね返し／ 一千もの多くの眼が見るのをはね返し／ 国中の人間が話すのをはね返し／ ミカよ、居留まるな、ミカよ、去れ／ ジョオ、ジョオ！祓え、祓え！／ 雪の国チベットのリメー<sup>191)</sup>・テンバ・ギャツォ私が／ 稀有な「七つの教え」<sup>192)</sup>を以って教えを説きました／ 文殊菩薩の顕現・ケンツェ・ワンボの教えが広まり発展しますよう／ サワマンガラム (一切事物に吉祥あれ)！

## 謝 辞

本資料をまとめるにあたって、草稿の段階で長野泰彦先生 (総合研究大学院大学理事・副学長) から、提出後は査読の先生方から多くの貴重なコメントを頂いた。ここに謝意を表したい。

## 注

- 1) トウカン三世の『一切宗義』(18世紀)によると、ボン教を発展段階により三種類に分類する。初期をドルボン (芽が出たばかりのボン)、中期をキャルボン (方向を転じたボン) といい、これら二つのボンは、仏教に同化された新ボン教であるギュルボン (bsgyur bon) 「変形されたボン」と区別され、古代ボン教とされる。
- 2) 「九官」(sme ba dgu) とは、古代中国の五行の算術において亀の甲羅に描かれた1から9までの数であり、それぞれある特定の自然物や神に対応する。「八卦」(spar kha brgyad) とは、易の図像表現を指す。「九官八卦図」とはこれら二つが組み合わさったものである。
- 3) 注 168 参照。
- 4) 原文の「phyogs bzhi mtsam」を「phyogs bzhi mtsams brgyad」の誤記と解釈した。
- 5) サンスクリットの場合には通常「フリーヒ」と音写されるが、ここでは現地ラサで実際発せられる音を尊重し「シー」とした。
- 6) 筆者が2011年プータン・ティンブーに滞在していた際見かけた、民家のドアの上に貼られたミカの護符 (sgo srung) にも、中央部分に眼が描かれていた (写真6)。
- 7) アムドはチベット東北部を指し、ほぼ中国青海省と合致する。カムは東チベット地域を指し、チベット自治区の東端部分、四川省の西部などに相当する。アムド及びカムには、中央チベットに比べてニンマ派の僧侶・尼僧が多い。ニンマ派とはチベット仏教の四大宗派のひとつで、その歴史が最も古く、ボン教や民間信仰的な要素を多く取り込んでいる点に特徴がある。在家行者も多い。
- 8) 十字に交差させる手は、チベットに於いて魔除けのモチーフになることもある十字型の金

剛杵 (rdo rje rgya gram) を象徴している可能性があるが、この点はさらなる検証が必要であろう。

- 9) 詳細はヴァージニア大学の The Tibetan & Himalayan Library 内の以下のサイトを参照。  
<http://www.thlib.org/reference/transliteration/#!essay=/thl/ewts/tables/>
- 10) テンバ・ギャツォの詳細に関しては、Bründer (2008: 145–163) などを参照されたい。
- 11) ダラムサラ版では gtong。原語 stong と比較すると、ダラムサラ版の gtong の方が文脈上より適切だと判断されるので、こちらを訳出に採用。
- 12) ダラムサラ版では ring。
- 13) ダラムサラ版では gzug。
- 14) テキスト B では la。
- 15) ダラムサラ版の当該句は、/yul sa yar lung zer ba na/。こちらが文脈上より適切だと判断されるので、訳出はダラムサラ版を採用。
- 16) ダラムサラ版では gzug。
- 17) ダラムサラ版では rims kyis。
- 18) ダラムサラ版ではこの la は存在しない。
- 19) ダラムサラ版では繰り返し記号ではなく、bsgyur。
- 20) ダラムサラ版の当該句は、/kham chu nag mo bzolg tu gosl/。こちらが文脈上より適切だと判断されるので、訳出はダラムサラ版を採用。
- 21) ダラムサラ版ではこの dang は存在しない。
- 22) ダラムサラ版では spang。こちらを訳出に採用。
- 23) ダラムサラ版では spang。こちらを訳出に採用。
- 24) ダラムサラ版では pas。
- 25) ダラムサラ版では繰り返し記号ではなく、dgra la bsgyur/。
- 26) ダラムサラ版では繰り返し記号ではなく、tu gosl/。
- 27) ダラムサラ版では ba'i。
- 28) ダラムサラ版では繰り返し記号ではなく、bzlog tu gosl/。
- 29) ダラムサラ版では ba'i。
- 30) ダラムサラ版では 'jol。原語 ljon は 'jol の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 31) テキスト B では pas。
- 32) テキスト B では bap。
- 33) ダラムサラ版では mchu。
- 34) ダラムサラ版では ba'i。
- 35) テキスト B では gser。原語 seng と比較すると、テキスト B の gser の方が文脈上より適切だと判断されるので、こちらを訳出に採用。
- 36) ダラムサラ版では、|ではなく /。
- 37) ダラムサラ版では sbrul。
- 38) ダラムサラ版では 'ga'。原語 dga' は 'ga' の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 39) ダラムサラ版では sdod。bsdad の誤記か。
- 40) ダラムサラ版では po。
- 41) ダラムサラ版では klung。klong の誤記か。
- 42) ダラムサラ版では brag。原語 phrag は brag の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 43) ダラムサラ版では klung。klong の誤記か。
- 44) ダラムサラ版では gyi。文法上、原語 gyis は gyi の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 45) ダラムサラ版では phug。原語 phugs は phug の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 46) ダラムサラ版では tu。
- 47) ダラムサラ版では tu。
- 48) ダラムサラ版では yar。文脈上、原語 yang は yar の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 49) ダラムサラ版では gogs。

- 50) ダラムサラ版では **thab**。文脈上、原語 **thabs** は **thab** の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 51) ダラムサラ版では **spun**。原語 **sphun** は **spun** の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 52) ダラムサラ版では **skas**。文脈上、原語 **skad** は **skas** の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 53) ダラムサラ版では **gi**。文法上、原語 **gyis** は **gi** の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 54) ダラムサラ版では **khyim**。
- 55) ダラムサラ版では、原語 **swa sto** は **sa twa**。
- 56) テキスト B では **can**。
- 57) ダラムサラ版では **tsA**。
- 58) ダラムサラ版では **rgyan**。
- 59) ダラムサラ版では **mi**。文脈上、原語 **min** は **mi** の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 60) 文脈上、**chen** は **can** の誤記だと思われる。
- 61) ダラムサラ版では **kyang**。
- 62) ダラムサラ版では、原語 **da ni bsdod** は **'di na sdod**。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 63) ダラムサラ版では **tsa**。こちらを訳出に採用。
- 64) テキスト B では **ri**。文脈上、原語 **rigs** は **ri** の誤記であると判断される。テキスト B を訳出に採用。
- 65) ダラムサラ版では **gson**。文脈上、原語 **son** は **gson** の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 66) ダラムサラ版ではこのセンテンスの直後に以下の祈祷文が続く。/de nas phar la song tsa na/ /chu de phar 'dus tshur 'dus yod/ /chu gsum 'dus pa'i dkyil 'khor nas/ /chu 'dre pho mo tshogs sa yin/ /de ru ma 'dug phar la song/ (そこからあちらへちよっと行くと / 河があっちこちから集まったところがある / 河が三つ集まった曼荼羅がある / (それは,) 男女の水の霊の集い場である / そこにいるな, もっとあっちへ行け /)
- 67) ダラムサラ版では **gyi**。文脈上、原語 **gyis** は **gyi** の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 68) ダラムサラ版では **'gug**。文脈上、原語 **'dug** は **'gug** の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 69) テキスト B (及びダラムサラ版) では **ma**。文法上、原語 **mi** は **ma** の誤記であると判断される。テキスト B を訳出に採用。
- 70) ダラムサラ版では **gson**。文脈上、原語 **son** は **gson** の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 71) ダラムサラ版では **sog**。原語 **srog** は **sog** の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 72) ダラムサラ版では、原語 **sgrogs ni** は **'grogs nas**。こちらが文脈上より適切だと判断されるので、訳出はダラムサラ版を採用。
- 73) ダラムサラ版では繰り返し記号ではなく、**'grogs nas song**。
- 74) ダラムサラ版では **klad**。文脈上、原語 **rlad** は **klad** の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 75) ダラムサラ版では **ze**。文脈上、原語 **bre** は **ze** の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 76) テキスト B では **sdang**、ダラムサラ版では **gdang**。文脈上、原語 **sdong** は **gdang** の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 77) ダラムサラ版では **'gron**。
- 78) ダラムサラ版では **khog**。原語 **khogs** は **khog** の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 79) ダラムサラ版では **snyab**。 **snyob** もしくは **bsnyab** の誤記か。
- 80) ダラムサラ版では **drwa**。
- 81) ダラムサラ版では **drel**。原語 **grel** は **drel** の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。

- 82) ダラムサラ版では *rmig*。文脈上、原語 *dmigs* は *rmig* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 83) ダラムサラ版では *sog*。
- 84) ダラムサラ版ではこの *sogs* は存在しない。
- 85) ダラムサラ版では *zangs*、テキスト B では *pzangs*。文脈上、原語 *bzangs* は *zangs* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 86) ダラムサラ版では *rno*。文脈上、原語 *sno* は *rno* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 87) ダラムサラ版では *gzhu*。文脈上、原語 *zhu* は *gzhu* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 88) ダラムサラ版では *skyer*。原語 *bskyer* は *skyer* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 89) ダラムサラ版では *spen*。原語 *span* は *spen* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 90) ダラムサラ版では *nas*。原語 *las* は *nas* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 91) テキスト B では *sdo*。
- 92) ダラムサラ版では *sgog*。原語 *sgogs* は *sgog* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 93) テキスト B (及びダラムサラ版) では *la*。原語 *ya* は *la* の誤記であると判断される。テキスト B を訳出に採用。
- 94) ダラムサラ版では *zos*。
- 95) ダラムサラ版では *sbang*。文脈上、原語 *spang* は *sbang* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 96) ダラムサラ版では *du*。
- 97) ダラムサラ版では繰り返し記号ではなく、*nas song/*。
- 98) ダラムサラ版では、原語 *chags pho chags* は *chag phor chag*。こちらが文脈上より適切だと判断されるので、訳出はダラムサラ版を採用。
- 99) ダラムサラ版では *tshon*。文脈上、原語 *mtshon* は *tshon* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 100) ダラムサラ版では、原語 *ba'i kha* は *pa'i mkhar*。こちらが文脈上より適切だと判断されるので、訳出はダラムサラ版を採用。
- 101) ダラムサラ版では *la*、テキスト B では *nas*。原語 *las* は *nas* の誤記であると判断される。テキスト B を訳出に採用。
- 102) ダラムサラ版では *them*。文脈上、原語 *than* は *them* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 103) ダラムサラ版では *cu*。原語 *bcu* は *cu* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 104) ダラムサラ版では *kha*。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 105) ダラムサラ版では *glo*。
- 106) ダラムサラ版では *po*。原語 *po'i* は *po* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 107) ダラムサラ版では *gleng gzhi*。文脈上、原語 *gling bzhi* は *gleng gzhi* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 108) ダラムサラ版では *brtsigs*。原語 *rtsigs* は *brtsigs* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 109) ダラムサラ版では *shig*。
- 110) ダラムサラ版では別の繰り返し記号である、*=*。
- 111) ダラムサラ版では *sgo yi khyi la =/* となっており、*ma* が繰り返し記号「*=*」の中に含まれている。以下、ダラムサラ版にある *ma chags shig/* の繰り返し記号を *=/* と表わし、本文に挿入した。また、注 117、120 にあるように、*ma* を繰り返し記号の中に含まない場合もあり、このあたりの表記は非常にランダムである。
- 112) ダラムサラ版では *skyes*。原語 *skye* は *skyes* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。

- 113) ダラムサラ版では *btab*。文脈上、原語 *stabs* は *btab* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 114) ダラムサラ版では *po*。
- 115) ダラムサラ版では *brgyan*。文法上、原語 *rgyan* は *brgyan* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 116) ダラムサラ版では *drel*。
- 117) ダラムサラ版では */khyung dkar mdzo la ma =/*。
- 118) ダラムサラ版では *'jo*。原語 *'jol* は *'jo* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 119) ダラムサラ版では *g.yang*、テキスト B では *ga lang*。
- 120) ダラムサラ版では */tshe tshe ra la ma =/*。
- 121) ダラムサラ版では、原語 *gling pa* は *gleng ba*。こちらが文脈上より適切だと判断されるので、訳出はダラムサラ版を採用。
- 122) ダラムサラ版では *bltas*。文脈上、原語 *ltas* は *bltas* の誤記であると判断される。ダラムサラ版を訳出に採用。
- 123) ダラムサラ版（及びテキスト B）では、*mi* のすぐ後に *kha* 字がある。こちらが文脈上より適切だと判断されるので、訳出はダラムサラ版を採用。
- 124) ダラムサラ版では、*cig* の字句が加えられている。
- 125) ゴシップ、噂、風評、罵り、嫉妬からくる賛美、呪詛の言葉の類。
- 126) ミカ祓いの祈禱を創始したとされるパドマサンバヴァの真言。なお、この真言中の「ベンツァ」であるが、これはサンスクリット語の「ヴァジュラ」のチベット語表記である。ここでは現地ラサで多用される音である「ベンツァ」をそのまま真言の音とした。
- 127) 「フム、フム、ジョオ、ジョオ」は、悪霊払いの祈禱の際、常用される真言の一種。「ジョオ、ジョオ」という発音は、原語の忠実な発音「バヨー、バヨー」が訛ったものと思われる。また、地域や個人によって「ボハー、ボハー」とも読まれるようである。
- 128) 原文の *bzlog* はテキスト中多用されるが、文脈によって「祓う」、「追い返す」、「追い払う」、「封じる」、「はね返す」などと訳した。
- 129) *tig ta* の訳語を「チビ」とした。*tig ta* は薬草の一種であるが、筆者のインフォーマントでナクチュ出身のミカ祈禱者によると、北チベットの方言で「小さい」という意味があるらしい。
- 130) 原文の *rgya* を、「漢民族が住む地域」を指す言葉として「漢土」と訳した。
- 131) 原文の *bsgyur*（他動詞）を発音の似ている *'gyur*（自動詞）の誤記と解釈すると、このセンテンスは、「漢土の王はチベットの王になった」と訳出できる。
- 132) 原文の *rgya 'dre* は「揉め事」と訳出したが、「漢の魔」であるとも解釈できる。
- 133) 古代チベット王朝の発祥地。
- 134) 原文に忠実に訳出すると、「暗黒の坎（かん）を阻止するよう祈る」となり、やや意味不詳となる。「坎」とは古代中国の自然観である八卦のひとつである。文脈から察するに、原文の中にある *kham chu*（坎）は、*kha mchu*（おしゃべり、非難、口の禍）の誤記である可能性が高い。ここでは思い切って、この解釈を採る。なおこのセンテンスはテキスト中繰り返されるが、ここでの解釈を引き続き採用した。
- 135) 原文の *gangs stod*（上部の雪）を文脈から「雪山」と訳出した。
- 136) 原文の *ling* を *lings*（狩獵）の誤記と解釈した。
- 137) *mtha' bskor* は「囲む」の意味だが、文脈から「飛び回る」と訳出した。
- 138) *mtsho stod* は直訳すると「湖の上部」だが、あまり意味をなさない為、単に「湖」とした。
- 139) *mtha' bskor* は「囲む」の意味だが、文脈から「泳ぎ回る」と訳出した。
- 140) チベットにおける八部衆は必ずしも確定していないが、以下が主なものである。*gshin rje*（閻魔）、*ma mo*（妖女）、*srin po*（羅刹）、*gnod sbyin*（夜叉）、*mi'am ci*（緊那羅）、*sa bdag*（土地神）、*btsan*（ツェン）、*bdud*（魔）、*lha*（天）、*klu*（龍神）、*dri za*（乾闥婆）、*lha min*（阿修羅）、*rgyal po*（ゲルポ）、*gza*（羅睺）、*the'u rang*（テプラン）。本文中での八部衆は、世俗の神（*'jig rten gyi lha*）一般を指すと思われる。なお、チベットの八部衆に関しては、*Revue d'Etudes Tibétaines* (numéro deux – Avril 2002 [Numéro spécial *Lha srin sde brgyad*]) を参照。
- 141) 原文の *rlung* もしくは *klung* を *klong*（内部）の誤記と解釈した。
- 142) ツェンとは、戒律を破った僧などの意識が現世に残り、地縛霊や荒ぶる神となったものであり、八部衆のうちの一つに数えられることもある。岩などに宿るものもいるが、僧院や寺

- を守護する護法神として崇拜されることもある。
- 143) 男神。特に男性を守護する神で、家の屋上などに宿り、外部の敵などから家人を護るとされる (Tucci 1988 [1980]: 188)。
- 144) 家屋の神。mo lha や phug lha などとも言う。特に女性を守護する神で、家の柱に宿るとされ、財産などを護るとされる。(同書: 188-189)
- 145) お蔵の神。
- 146) gog もしくは gogs は意味不明であるが、「灰」を意味する gog thal や go thal の一種の略語と解釈し訳出した。
- 147) 竈の神。
- 148) 直訳すると、「梯子の神」となる。梯子や階段は、異なる階層を橋渡しする境界的な場所であるため、神が宿るとされるのか。筆者はチベット・ラサに長年住んでいるが、この神については一切聞いたことがない。
- 149) ここでいう「梁」とは、梯子の縦木のことか。
- 150) 家畜を守護する「家畜神」のこと。
- 151) 門の神
- 152) 八世紀に建設されたチベット最初の僧院。
- 153) 仏教の国教化を進めた、古代チベット王朝最盛期の国王。在位 755 ~ 797 年。
- 154) 原文に沿って考えると、gzugs [gzug] は他動詞であるため、mgo nag yongs kyi mi kha (あらゆる俗人たちのミカ) が目的語となり、主語が欠落した文となる。もしくは、この祈祷文の著者は、gzugs [gzug] を自動詞と誤ったのか。その場合、訳語は「あらゆる俗人たちのミカが刺し立つ」となる。筆者の訳文では、原文の kyi を kyis のスペルミスと解釈し、「あらゆる俗人」を主語、ミカを目的語し、文を完結させた。以下、fol. 5b ~ 6a の同表現は、同様の扱いとした。この祈祷文の著者が他動詞である gzugs [gzug] を、自動詞のように振舞わせた背景には、嫉妬する悪霊ミカの自律的性格が反映しているのかもしれない。
- 155) ティソンデツェン王の子で、ムネ・ツェンボともいう。
- 156) 本ミカ祓いの祈祷の創始者とされる。チベット仏教・ニンマ派の祖師として崇められている。テキスト中に出てくるサムイェー寺建立の際、土着の神々を調伏したと言われる。
- 157) インドのナーランダー大僧院出身の高僧で、上のティソンデツェン王、パドマサンバヴァとともにサムイェー寺を建立した。
- 158) チベットで最初に出家した七人 (sad mi mi bdun) のうちの一人で、密教経典をチベット語に翻訳するうえで、中心的な役割を果たした。
- 159) パドマサンバヴァの 25 弟子のうちの一人で、sad mi mi bdun の一人でもある。
- 160) パドマサンバヴァの 25 弟子のうちの一人。ナナムのスペルは sna nam ではなく sna nam か。
- 161) ティソンデツェン王の妃の一人。
- 162) 原文の rgyu sbyor (施主) は、rgyu 'byor (富) の誤記と解釈した。
- 163) 原文の chen (大きい) は、can (持っている) の誤記と解釈した。また注 154 の解釈に沿って、原文の yi は yis として訳出した。
- 164) 同じく、'dre'i を 'dres と解し訳出した。
- 165) 同じく、pa'i を pas と解し訳出した。
- 166) 上と同じ。
- 167) 漢土 (中国) のこと。
- 168) テプランとは、小さい子供と戯れたり、サイコロ賭博をしたりする、遊び好きな邪鬼の一種。また、雷や雹を制御する際、チベットの呪術者たちはこのテプランを召喚するという。
- 169) ウ・ツァンのチベット人から、歴史上、呪術の盛んな地域だと見なされてきた辺境地。
- 170) 原文の lab zhogs nyung zhogs の lab は la-phug (大根)、nyung は nyung ma (カブ) の略語と解した。
- 171) 原文の g.yer ma は、赤唐辛子ではなく花椒の可能性もある。
- 172) 原文の snyabs もしくは snyab を、snyob もしくは bsnyab (手などを伸ばして取る) の誤記と解釈した。
- 173) チベット医学で用いる薬草の一種。手の形に似る。
- 174) 原文の tshe (人生、生命) を rtsib (肋骨) の誤記と解釈した。
- 175) 原文の kha rag を kha ra (かいば袋) の誤記と解釈した。
- 176) 原文の ra sogs [sog] lug sogs は意味不明であるが、筆者のインフォーマントでナクチュ出身のミカ祈祷者によると、「ヤギや羊の毛皮の切れ端」の意味であるらしい。

- 177) 原文の *kyur ba* を *skyel ba* (運ぶ, 携帯する) の誤記と解釈した。  
178) 黄蘗 (きはだ) の一種か。  
179) 灌木の一種。  
180) 原文の *tshod* (測る) を *'tshod* (煮る) の誤記と解釈した。なお, 生の緑野菜は, 家畜などの動物が食べるものだと言われ, 伝統的にはチベット人はほとんど食べることはない。  
181) 原文の *lhab* を *lhag* (残余, 残り) の誤記と解釈した。  
182) 原文の *'thing bu [du] 'thung shun* を *mthil du 'thung shul* (底の飲み滓) の誤記と解釈した。  
183) 原文の *lcags* を *chag* (割れる, 粉碎する) の誤記と解釈した。  
184) 両者とも, 悪霊を祓う際に用いる儀礼用の道具。ナムカーはカラフルな網状になっており, 悪霊を捕える際の網となるもの, ギャンブは呪術用の絵画や模様が描かれた細長い板で, 主に憑代として用いられる。  
185) 原文の *rtsa* (脈) を *rtswa* (草) の誤記と解釈した。  
186) 災厄に遭っている者の身代わりとなる儀礼用の人形や供物。ツァンパ (大麦を炒って粉としたもの) と水などによって作られる。  
187) 原文の *kham chu* を *kha mchu* の誤記と解釈した。注 134 参照。  
188) 邪鬼の一種。なお, ミカの主としてのゴンポなのか, 施主などの主に憑依しているゴンポなのかは不明。  
189) 雌牛とヤク, もしくは雄牛とビ (メスのヤク) の雑種。  
190) メスのヤク。  
191) 十九世紀初頭より東チベットを中心に始まった超宗派運動。  
192) 祖師や聖人, 神仏などから伝えられる教えの媒体の総称。口訣 (*bka'ma*) や埋蔵経典 (*sa gter*) など七つの媒体・道筋があるとする。

## 文 献

- Bloch, M.  
1989 Symbols, song, dance and features of articulation: Is religion an extreme form of traditional authority?. In M. Bloch (eds.) *Ritual, History and Power: Selected Papers in Anthropology*. pp. 19–45. London and Atlantic Highlands NJ: The Athlone Press.
- Bründer, A.  
2008 *Account of a Pilgrimage to Central Tibet*. Dharamsala: Library of Tibetan Works and Archives.
- Nebesky-Wojkowitz, René de  
1993 [1956] *Oracles and Demons of Tibet: The Cult and Iconography of the Tibetan Protective Deities*. Delhi: Book Faith India.
- Stein, R. A.  
1972 [1962] *Tibetan Civilization*. Stanford, California: Stanford University Press.
- Tambiah, S. J.  
1985 *Culture, Thought, and Social Action : An Anthropological Perspective*. Cambridge and London: Harvard University Press.
- Tucci, G.  
1988 [1980] *The Religions of Tibet*, translated by Geoffrey Samuel. Berkeley and Los Angeles: University of California Press.



写真1 メロンとグミ



写真2 鼻の頭に煤を塗られた女の子



写真3 ミカの憑代と思われる石板



写真4 ミカを祓う祈禱の彫られた石板



写真5 ラサ・バルコル周辺の路地においてミカ祓いの祈祷をする僧侶たち

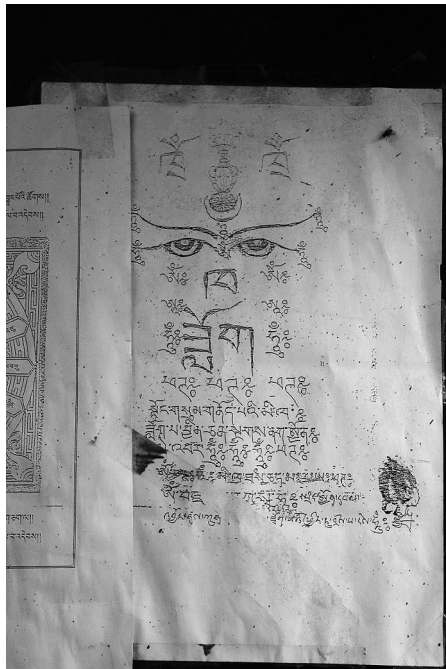


写真6 民家のドアの上に貼られたミカの護符  
(ブータン・ティンパーにて)